

教科（科目）	公民（公共）	単位数	2単位	年次	2年次（全系列）
使用教科書	詳述公共（実教出版）				
副教材等	フォーム公共2024（とうほう） 詳述公共マイノート新課程版（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（1）現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
（2）現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
（3）よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

（1）教科書、資料集、情報機器を活用し、課題の解決という目的に合わせて必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取りまとめる技能を身に付ける。
（2）社会的事象等自体が様々な側面をもつ「多面性」と、社会的事象等を様々な角度から捉える「多角性」とを踏まえて考察するため、グループワーク等を通して他者の意見を聞き、要約する力を身に付ける。また、課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめ、公正に判断することのできる力を身に付ける。
（3）学校外の機関と連携した授業展開を取り入れ、現代の諸課題について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○人間と社会の在り方について、基礎的・基本的な知識を確実に修得しながら、既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていく。個別の知識の定着をはかり活用できる。 ○社会的事象等に関する情報を収集する技能、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせて、収集した情報を適切かつ効果的に読み取る技能、読み取った情報を効果的にまとめる技能の三つの技能を身につけている。	○社会的事象の地理的又は歴史的又は現代社会の見方・考え方を生かしつつ人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に身につけた選択・判断の手掛かりとなる考えを根拠に多面的・多面的に考察できる。 ○以上の考察の根拠をわかりやすく示せる。 ○他者と議論及び合意形成ができる。	○現代の諸課題について主体的に追求する。学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ○よりよい社会の実現に向けて、多面的・高知的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ○定期考査での知識・技能項目 ○レポートやワークシートの内容 ○発表や討論等の様子や内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ○定期考査で思考・判断・表現の項目 ○レポートやワークシートの内容 ○発表や討論等の様子や内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ○レポートやワークシートの内容 ○発表や討論等の様子や内容 などから評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる	8	・自らの体験などの振り返りを通し、自らを成長させる人間としての在り方生き方について実践する。 ・自分自身がよりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解し、実践している。 ・人間は、個人として相互に尊重される存在であること、対話を通じて互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを理解し実践する。伝統や文化、先人の取組みや知恵を積極的に理解する。	abc	授業ノート課題 定期考査 レポート 授業態度
	I 期 期 末	第3章 民主社会の倫理 第4章 民主国家における基本原理 第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	14	・個人と社会との関わりを多面的・多角的に意欲的に理解しようとし、考察・表現している。 ・各人の意見や利害を公平、公正に調整することなどを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることを理解している。 ・法や規範の意義及び役割など、憲法の下適正な手続きに則り各人の意見や利害を公平公正に調整することを通して、権利や自由が保障実現されていくことを理解している。	abc	授業ノート課題 定期考査 レポート 授業態度
	II 期 中 間	第2章 日本の政治機構と政治参加 第3章 現代の経済社会	12	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を主体的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、財政の役割、社会保障、市場経済、金融の働き、雇用と労働問題、などに関わる現実社会の事柄や課題を主体的に解決しようとしている。	abc	授業ノート課題 定期考査 レポート 授業態度
後期	II 期 期 末	第4章 経済活動のあり方と国民福祉 第5章 国際政治の動向と課題	16	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な契約、消費者の権利と責任、職業選択などにかかわる現実社会の事柄や課題を主体的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国家主権、領土（領海・領空を含む）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などにかかわる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	abc	授業ノート課題 定期考査 レポート 授業態度
	年 次 末	第6章 国際経済の動向と課題 第3編 持続可能な社会作りの主体となる私たち	20	・経済のグローバル化と相互依存の深まりなどにかかわる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解している。・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	abc	授業ノート課題 定期考査 レポート 授業態度

7 課題・提出物等

計70時間（50分授業）

・授業ノート課題 ・小テスト ・レポート

8 担当者からの一言

何でもやってみましょう。

令和6年度シラバス（保健体育）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- （2）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- （3）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・技能の観察 ・スキルテスト ・体育理論（知識確認） ・体育学習カード（内容確認） などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・仲間との会話、コミュニケーション等の観察 ・体育学習カード（内容確認） などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・自発的行動等の観察 ・体育学習カード（内容確認） などから評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	Ⅰ 期 中 間	・オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技 走幅跳 円盤投	1 1 10	・科目及び授業内容の説明、諸連絡、諸注意 ・体ほぐしの運動、体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力に応じた運動計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ・合理的なフォームを身に付けより速くに跳ぶことや、投げることができることをねらいとし、自己の記録を向上させるための技能向上を図り、記録向上の喜びや競争の楽しさを体感する。	・bc ・abc	
	Ⅰ 期 期 末	・球技、武道選択Ⅰ ソフトボール（ベースボール型） テニス（ネット型） サッカー（ゴール型） 武道（剣道） ・体育理論	19 2	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防を展開する。マット運動を通して自己の能力に応じて「技を習得すること」と「技を円滑にできること」を主なねらいとし、技の達成や演技の出来栄に楽しさや喜びを体感する。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴について理解できるようにする。（現代高等保健体育教科書使用）	・abc ・ab	
	Ⅱ 期 中 間	・球技、武道選択Ⅱ ソフトボール（ベースボール型） テニス（ネット型） サッカー（ゴール型） 武道（剣道） ・球技、武道選択Ⅲ バレーボール（ネット型） バドミントン（ネット型） バスケットボール（ゴール型） 卓球（ネット型）	 18	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防を展開する。	・abc	・技能観察 ・コミュニケーション等の観察 ・自発的行動等の観察 ・体育理論（知識確認） ・体育学習カード（内容確認） ・スキルテスト ・出席状況
後期	Ⅱ 期 期 末	・体づくり運動 ・球技、武道選択Ⅳ バレーボール（ネット型） バドミントン（ネット型） バスケットボール（ゴール型） 卓球（ネット型） 武道（剣道）	2 22	・体ほぐしの運動、体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力に応じた運動計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防を展開する。	・abc ・abc ・bc	
	年 次 期 末	・球技、武道選択Ⅴ バレーボール（ネット型） バドミントン（ネット型） バスケットボール（ゴール型） 卓球（ネット型） 武道（剣道） ・体育理論	28 2	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防を展開する。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴について理解できるようにする。（現代高等保健体育教科書使用）	・abc ・ab	

7 課題・提出物等

計105時間（50分授業）

- ・単元ごとに体育学習カードを記入し、提出することとなります。
- ・単元に対する体育理論（知識確認プリント）があります。

8 担当者からの一言

「生きる力」を構成する「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の3つの項目を養える教科です。
生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、安全を確保する中で運動に親しみ、楽しみを味わうことが重要になります。
集団でのルールを守り、主体的に実践していきましょう。

教科（科目）	保健体育（保健）	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次の通り育成する。 （１）個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 （２）健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 （３）生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

○生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して次の事項を身に付けることができるようにする。 ①生涯を通じる健康について理解を深めること。 （１）生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解する。 （２）労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する障害や職業病などを踏まえた適切な健康管理法を思考し、安全管理をする必要があることを理解する。 ②生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 ○健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して次の事項を身に付けることができるようにする。 ①健康を支える環境づくりについて理解を深めること。 ②健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあること、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対応が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②結婚生活について、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、健康課題には年齢や生活習慣などが関わること、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響、結婚生活を健康に過ごすには、様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいを持つこと、運動委やスポーツに取り組むこと、家族や友人などと良好な関係を築くこと、地域における交流をもつことなどが関係すること、また、高齢期には加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その後の変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあること、さらに、高齢社会では保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ④労働災害は、作業形態や、作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたこと、労働災害を防止するには、過重労働の防止を含む健康管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ⑤働く人の健康の保持増進には、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つこと、働く人の日常生活においては、生活の質の向上を図ることなどで、健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	①生涯を通じる健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ②生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ③労働災害と健康について、健康管理や安全管理に関わる取り組みを整理し、個人生活や、社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見している。 ④労働災害と健康について、習得した知識を基に労働災害の防止に向けて、個人の取り組みと社会的対策を整理しているとともに、筋道を立てて説明している。	①思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ②労働災害と健康、働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習カードの内容確認 ・ノート等の提出物の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表等への取り組みを観察 ・学習カードの内容確認 ・ノート等の提出物の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表等への取り組みを観察 ・学習カードの内容確認 ・ノート等の提出物の確認 などから、評価します。

6 学習計画

考查		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	3 単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択	4	・ライフステージと健康の関連について理解できるようにする。 各ライフステージで活用できる社会からの支援について例を挙げることができるようにする。 ・思春期における体の変化を女性と男性にわけて理解できるようにする。 思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例を挙げることができるようにする。 ・性意識の男女差について例を挙げて説明できるようにする。 性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例を挙げることができるようにする。	abc	・定期考查の分析 ・学習カードの確認 ・ノート等の提出物 ・授業中の発言、発表等への取り組みを観察
	I 期 期 末	4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康	7	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明ができるようにする。 妊娠・出産に活用できる母子保健サービスの例を挙げることができるようにする。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できるようにする。 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できるようにする。 ・心身の発達と結婚生活の関係について説明できるようにする。 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を挙げることができるようにする。	abc	
	II 期 中 間	7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 4 単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康	6	・加齢に伴う心身の変化について例を挙げて説明できるようにする。 高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例を挙げて説明できるようにする。 ・働くことの意義と健康との関りについて説明できるようにする。 働き方や働く人の健康問題の変化について説明できるようにする。 ・労働災害の種類とその原因について例を挙げて説明できるようにする。 労働災害を防止するために必要なことを挙げることができるようにする。 ・職場が行う健康に関する取り組みについて例を挙げて説明できるようにする。 余暇を積極的にとることについての意義について説明できるようにする。 ・大気汚染の原因と健康への影響について例を挙げて説明できるようにする。 大気にかかわる地球規模の健康問題について例を挙げて説明できるようにする。	abc	
後期	II 期 期 末	2 水質汚濁、土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	8	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できるようにする。 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生の仕組みについて説明できるようにする。 ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できるようにする。 産業廃棄物の処理について説明できるようにする。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できるようにする。 上下水道の仕組みと健康にかかわる課題を説明できるようにする。 ・食品の安全性と健康とのかわりについて説明できるようにする。 食品の安全性に関する今日の課題について説明できるようにする。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できるようにする。 食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できるようにする。	abc	
	年 次 期 末	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	10	・保健行政の役割について例を挙げて説明することができるようにする。 保健サービスの活用の例を挙げることができるようにする。 ・わが国における医療保険の仕組みについて説明できるようにする。 さまざまな医療機関の役割について説明できるようにする。 ・医薬品の正しい使用法について説明ができるようにする。 医薬品の安全性を守る取り組みについて例を挙げて説明できるようにする。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について例を挙げて説明できるようにする。 行政機関による社会的対策について例を挙げて説明できるようにする。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できるようにする。 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できるようにする。	abc	

7 課題・提出物等

35時間（50分授業）

- ・単元ごとに学習カードを記入し、提出することとなります。
- ・単元に対するノート（副教材）への記述（知識確認）があります。

8 担当者からの一言

保健を通して、健康についての基礎的な知識と現代社会におけるわが国の疾病構造などを理解することが大切です。社会の変化にともなって、健康と安全の問題も日々変化してきます。さまざまに変化する健康問題に適切な対処するために、自分が何を身につけて実践していくべきかを学習し、行動に移してほしいと願っています。

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2 単位	学年	2 学年
使用教科書	教育芸術社 「MOUSA Ⅰ」				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

音楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽や音楽文化と創造的に関わる資質・能力を育成することを目指す。
(1)音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けるようにする。
(2)音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図を明確にもったり、音楽や演奏の価値をみだして鑑賞したりすることができるようにする。
(3)主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、音楽文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

・音楽についての総合的な理解を深めるために、歌唱・器楽・鑑賞・創作の各領域を一体化した内容を授業に盛り込む。
また、主体的な学習態度を育てるため、適切な課題を設定して学習を進める。
・計画的な共同作業を設定して、仲間と協力して努力し、達成感と演奏するよろこびを体験させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	・自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・筆記試験 ・活動時の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・取り組み姿勢 ・指導や指示への反応 ・提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・遅刻、忘れ物がないか ・指導や指示への反応 ・活動時の観察 ・提出物 ・実技テスト などから、評価します。

6 学習計画

考查	単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	Ⅰ 期中 間	8	・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけながら、イメージをもって表現を工夫して歌う。 ・曲想とギターの色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する。	ABC	・実技テスト ・自己評価 ・観察
	Ⅰ 期 期 末	14	・J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう ・負けないで ・翼をください ・日曜よりの使者 ・その他 ・音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう ・この道 ・夏の思い出	ABC	・実技テスト ・自己評価 ・提出物 ・観察
	Ⅱ 期 中 間	12	・互いの音をよく聴き合い、一体感のある演奏をしよう。 ・グリンスリーブス ・その他 ・さまざまな日本の伝統音楽とその特徴を理解し、魅力を味わおう ・三線 ・琴	ABC	・実技テスト ・自己評価 ・提出物 ・観察
後期	Ⅱ 期 期 末	16	・曲にふさわしい発声、発音、身体の使い方などの技能を身につけながら、イメージをもって表現を工夫して歌う。 ・ミュージカルを鑑賞し、物語のあらすじや登場人物の心情を理解するとともに、ミュージカルの特徴を知る。	ABC	・実技テスト ・自己評価 ・提出物 ・観察
	年 次 末	20	・作曲家の生涯と作品をたどろう ・トッカータとフーガ ・ブランデンブルグ協奏曲 ・ミュージカルナンバーを歌おう ・メモリー ・美女と野獣	ABC	・実技テスト ・自己評価 ・提出物 ・観察

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・課題に積極的に取り組む。
- ・各学期に歌唱および器楽の発表や試験を行う。
- ・鑑賞の記録を提出する。
- ・タブレットを使用し課題を提出。

8 担当者からの一言

楽譜の知識や正しい体の使い方などを覚え習得し、毎時間目的意識を持って取り組んでください。
歌唱では、様々なジャンルの曲を好き嫌いなく歌う努力をして、大人になっても忘れない1曲を見つけてほしいと思います。
アンサンブルでは積極的に練習・演奏に参加してください。

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	光村出版 美術Ⅰ				
副教材等	巨匠の美術 美術の手引き 美術の見方				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1 年次は共通の科目を学び、2 年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3 系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3 系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3 年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

美術の幅広い創作活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 （２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 （３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

①美術の幅広い創造活動を通して、芸術への興味・関心を高める。 ②色彩や形の捉え方を理解し表現する技術を身に付ける。 ③想像力を豊かにし、多くのアイデアが生まれることを目指す。 ④友達の作品を鑑賞して、そのよさや美しさを知り美術の面白さを味わう。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
遠近法などで対象や事象をとらえ、造形的な視点について理解を深めている。 また、意図に応じて表現方法を創意工夫して制作・描画している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫と、テーマに沿った創造的な発想や構想を練ることができる。	授業の内容を理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・授業に対する真剣さ・意欲・態度。 ・幅広く美しさを味わっている。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品に対する創意工夫。 ・主体的に表現活動に取り組む。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・想像力を働かせて創造的な表現力、方法を工夫する。 ・作品制作の過程。（途中評価） などから、評価します。

6 学習計画

考查		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	・ 美術への目標（決意）とイラスト（B6） ・ デザイン画 ・ 自画像を描く	8	・ 美術への目標を書き、文に添ったイラストを描く ・ アイロンプリントのデザイン（エコバック） ・ 木炭とカラーコンテで顔のデッサン	A B C	下書きと完成作品
	I 期 期 末	・ キャンバス画（小作品） ・ デッサン（静物）	14	・ 構図のとらえ方 ・ 遠近法を学び静物デッサンをする。	A B C	下書きと途中評価 完成作品
	II 期 中 間	・ エクセルボードのスクラッチ画 ・ 色彩の平面構成	12	・ 10mm（厚さ）の純白ボードにクレパスで彩色後、純ブラックを塗りスクラッチ ・ コンパス、スケールで図形後、条件に添った画面構成を考える。	A B C	オリジナル 独創性
後期	II 期 期 末	・ 版画（A4） ・ 金属板（A5） ・ スクラッチ画	16	・ スチレン画ボードの多色刷り ・ 金属板に2色（赤・こげ茶）のカラーズプレー後、角ニードルでスクラッチ	A B C	テーマに添った完成度
	年 次 末	・ 金エレーフ ・ ガラスペーパー（6cm ² ）ウエイト	20	・ アルミ板の鍛金によるレリーフ制作 ・ ガラス角面にデザイン	A B C	アイデア スケッチと完成 作品

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・ 作品制作に”すぐに”取り組めるように課題のエスキース（下書き）の準備をします。
- ・ 提出日を守りましょう。

8 担当者からの一言

美術は絵画、デザイン、彫刻などの分野があります。それらを体験して自分の好きなもの、得意とするものを感じながら楽しく、美しさを求め、見い出しながら集中力をつけて作品制作をしましょう。

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2 単位	学年	2 学年
使用教科書	光村図書 「書Ⅰ」				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や所、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

（２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

（３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

- ・「漢字の書」では、楷書及び行書を重点的に取り上げ、鑑賞と臨書の基本を習得させることを目指す。また、書風の多様性とその背景にある文化への関心を広げられるようにする。さらに、篆書、隷書、草書では書体の特徴を捉えるようにする。
- ・「仮名の書」では、古筆の特性を踏まえ、基礎、基本、構成を段階的かつ実践的に習得できるようにする。
- ・「漢字仮名交じりの書」では、「漢字の書」、「仮名の書」での学習を踏まえ、主体的に構想し、自己表現できるようにする。
- ・年間の学習を通して、「書写」から「書道」への違いを理解し、基礎や表現力を養い、制作の楽しさや、達成感を持たせるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かさに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシート ・提出作品 ・学習まとめプリント ・学習態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシート ・制作プリント ・提出作品 ・学習過程 ・学習態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習態度 ・提出作品 ・鑑賞カードの記入状況 などから、評価します。

6 学習計画

考查	単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	Ⅰ 期 中 間	8	・書道で学習すること ・書写から書道へ	abc	ワークシート提出
			◎漢字の書 ・楷書 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」	abc	ワークシート提出 作品提出 授業の取組
	Ⅰ 期 期 末	14	「顔氏家廟碑」 「雁塔聖教序」	abc	ワークシート提出 作品提出 授業の取組
			北魏の書「牛橛造像記」 「鄭義下碑」	abc	
			・篆書 「泰山刻石」	abc	
	Ⅱ 期 中 間	12	・篆刻に挑戦しよう	abc	プリント提出 作品提出 授業の取組
			・行書 「蘭亭序」	abc	作品提出 授業の取組
			「風信帖」 日本で書かれた書	abc	
			・隷書	abc	
後期	Ⅱ 期 期 末	16	・草書「真草千文字文」	abc	プリント提出 作品提出 授業の取組
			創作 古典を生かした創作	abc	
			・刻字に挑戦しよう	abc	
	年 次 末	20	◎仮名の書 仮名の成立と種類	abc	ワークシート提出 作品提出 授業の取組
			平仮名 「蓬菜切」 「高野切第三種」		
			◎漢字仮名交じりの書学習	abc	プリント提出 作品提出
			生活の中の書	abc	授業の取組

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・臨書作品、創作作品、篆刻、刻字など提出
- ・各単元についてのワークシート
- ・制作プリントの提出

8 担当者からの一言

書道Ⅰの授業では、「書写」から「書道」への違いを実技、鑑賞などの幅広い活動を通して学んでいきます。書風の多様性とその背景にある文化への関心を広げ、鑑賞能力と表現力を養い、自己の表現に生かしていきます。

表現の活動では、創造性を高め、工夫を重ね、達成感が持てる作品となるように、集中して取り組んでください。

そして、手書きの文字の大切さを感じ、生涯にわたり書を愛好してほしいと思います。

令和6年度シラバス（家庭）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	家庭（家庭基礎）	単位数	2 単位	学年	2 学年
使用教科書	高等学校 家庭基礎 （第一学習社）				
副教材等	家庭基礎学習ノート（第一学習社）生活ハンドブック（第一学習社）ビジュアルクッキング（教育図書）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1 年次は共通の科目を学び、2 年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3 系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3 系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3 年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 （2）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 （3）様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 指導の重点

・人の一生を家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を営むために必要な理解を深めさせ、それらに係る技能を身に付けることを目指す。 ・家庭や地域及び社会における生活に興味・関心を持たせ、生活向上のための対策を考えたり、生涯を見通して課題を解決する基礎的な力を育てます。 ・様々な人と協働させ、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 （1）授業の取り組み状況（授業態度・出席状況・発問評価・授業プリント） （2）授業プリントの取り組み （3）ノート提出 （4）作品評価 （5）定期考査 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 （1）授業の取り組み状況（授業態度・出席状況・発問評価・授業プリント） （2）授業プリントの取り組み （3）ノート提出 （4）作品評価 （5）定期考査 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 （1）授業の取り組み状況（授業態度・出席状況・発問評価・授業プリント） （2）授業プリントの取り組み （3）ノート提出 （4）作品評価 （5）定期考査 などから、総合的に評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	家庭科の学び方 ・ホームプロジェクト、学校家庭クラブとは 1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会のかかわり	8	・「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ」の意義 ・生涯発達する自分 ・青年期を生きる ・キャリアの形成 ・ワーク・ライフ・バランスを求めて ・家族、家庭、世帯 ・結婚と変化する家族 ・家族に関する法律	(a) (b) (c)	提出物 ノート レポート 授業態度
	I 期 期 末	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 子どもの生活 3節 子育て支援と福祉 6章 衣生活をつくる 1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理 3節 これからの衣生活	14	・次世代をはぐくむ ・乳幼児の心身の発達 ・乳幼児期の生活、成長と遊び ・地域社会と子育て支援 ・私たちと衣服 ・被服の機能 ・被服の素材 ・洗濯方法と表示、洗濯のしくみ、被服の手入れと保管	(a) (b) (c)	提出物 ノート レポート 授業態度 定期考査
	II 期 中 間	5章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事 2節 栄養と食品 3節 食生活の安全のために 4節 食生活をデザインする	12	・私たちと食事 ・人体と栄養、五大栄養素と食品 ・食品の安全と衛生 ・栄養バランスのよい食事 ・食品群と摂取量のめやす ・献立作成 ・調理実習	(a) (b) (c)	提出物 ノート レポート 授業態度
後期	II 期 期 末	3章 充実した生涯へ 4章 ともに生きる 7章 住生活をつくる 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の設計と選択	16	・超高齢社会を生きる ・社会保障制度と社会的連帯 ・私たちと住まい ・平面図の活用 ・生涯を見通した住まいの工夫 ・快適で健康な住まい ・安全で安心な住まい ・住まいと地域社会のかかわり	(a) (b) (c)	提出物 ノート レポート 授業態度 定期考査
	年 次 期 末	8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして	20	・人生とお金 ・将来の経済生活を考える ・契約とは ・消費者問題はなぜ起こるのか ・多様化する支払い方法とリスク防止 ・消費者の自立と行政の支援 ・消費生活と持続可能な社会 ・消費者市民社会をめざして	(a) (b) (c)	提出物 ノート レポート 授業態度

7 課題・提出物等

計70時間（50分授業）

- ・学習ノート提出
- ・課題プリント等担当者から指示された課題の提出
- ・作品提出

8 担当者からの一言

自分や家族の生活、さらに地域社会の人々や暮らしについて、日頃から興味・関心を持ち、授業で学んだことを家庭生活の充実向上に役立てましょう。